

カイハラ

# 木材などをインディゴ染め

## インテリアとして提案

デニム製造国内最大手のカイハラ(広島県福山市)は、木材や皮革など、資材関連へのインディゴ染色の開発と商品提案を強化している。インディゴで染めた木のプレート



木材をインディゴ染めし、レーザー加工で柄を出す

管理の目線

一部のアパレルメーカーの店舗のインテリアとして採用されるなど、販路が広がっており、ビジネスを軌道に乗せる一歩にする(稲垣博章執行役員営業本部長)として、今年に設備投資なども進める。

資材へのインディゴ染色は社員の提案で昨年から取り組み始めた。木材や皮革などを手で染めるとともに、レーザー加工機も活用する。

現在はアパレルメーカーなどへ、店内のインテリアとして提案を進めて

から、スペインのジノロシア社のレーザー加工機を2年前に1台導入した。これを使い、顧客オプショナルのデザインや会社ロゴなどを木材に施す。

おり、一部採用が出てきた。建材メーカーや皮革メーカーなど、異業種の協業も模索する。今年には、ワッシャーといった設備を導入し、生産体制の整備にも注力。染色技術を生かし、Tシャツなどの古着をインディゴ染めで再生させるプロジェクトの立ち上げも計画する。稲垣執行役員は「住宅やオフィス、店舗など、日常生活のあらゆるシーンで「カイハラブルー」を浸透させていきたい」と話す。